

ドクターズアテンション インタビュー

医療・介護・保育サービスを必要とされる方のために誠心誠意



一般社団法人日の出医療福祉グループ 副代表(兵庫県加古川市) / 医療法人社団奉志会 理事長 / 大西メディカルクリニック 院長 大西 奉文 (ともゆき)

加古川市に本部を置く日の出医療福祉グループは医療サービスと社会福祉サービスを連携させ、地域の人々が安心して暮らせるようにするため、包括的に多様なサービスを提供しています。グループ副代表で整形外科医でもある大西奉文先生にお話を伺いました。

—— どういった経緯で日の出医療福祉グループを創設されたのか、教えてください。

大西 日の出医療福祉グループは、医療法人社団奉志会、社会福祉法人日の出福祉会、社会福祉法人博愛福祉会の3つの法人が協働するためにできたグループです。その内、私は医師として現場で勤務するとともに、グループの副代表と医療法人社団奉志会の理事長をしております。

奉志会の設立の経緯ですが、私の実家はキング醸造株式会社という醸造業を家業としております。私は4人兄弟の三男で、医師を目指し、大学は日本大学医学部に進みました。日本大学では卓球部に所属して部活動に熱中し東日本の医学部の大会で優勝したこともいい思い出です。ちなみに、当時の卓球部には、衆議院議員の鴨下一郎先生も6年生で在籍しておられ、私のことも覚えていただいているのではないかと思います。

卒業後は、大学に残るつもりで医師として研鑽をつんでおりましたが、卒業後10年経った頃、両親ともに病気になるという事態が起こりました。そこで、今後のキャリアについていろいろと考えた結果、これを機に稲美町に帰り、整形外科医として開業する道を選ぼうと決心しました。

開業当初は、患者さんを増やして経営が成り立つようにと必死でがんばっていましたが、そのうち、整形外科は肩こり、腰痛、膝の痛みなど意外に需要が多く、非常に多くの患者さんが来られるということが分かってきました。そこで、スペースを拡大して今の場所に移転するとともに、医師1人だけの診療所では発展性がないと思い、医師・診療科目を増やして医療法人社団奉志会を設立し、

老人保健施設も作り、職員を増やしてきました。

平成4年に、キング醸造株式会社を継いだ長男が、会社の周年記念事業として、社会福祉法人日の出福祉会を設立し、特別養護老人ホームを開設しました。次男は社会福祉法人博愛福祉会を継承して経営をしており、グループを創立する頃には、それぞれの法人が30億円程度の規模になっておりました。

厚生労働省の地域包括ケアを実施していくという政策の中で、今後の法人経営を兄弟で話し合った結果一緒にやった方がスケールメリットもあり、効率も良くなるだろうということになり、平成28年、社会福祉法人日の出福祉会、医療法人社団奉志会、社会福祉法人博愛福祉会の3法人の協業体制を推進していくため、「日の出医療福祉グループ」を創設することとしました。

国の事業を代行しているという安心・安全をやってやがたい

厚生労働省が「地域包括ケア」を提唱するようになり、今まで看取りまで行ってきた病院でも、病床が機能分化されていき短期間で退院される例をよく見るようになってきました。その患者さんは退院後地域で支援していかなくてはなりません。退院後地域で支援していかなくてはならない患者さんが、まだまだ受け皿が不足していました。そこで、日の出医療福祉グループとしては、まず今まで基盤を築いてきた兵庫県南部で受け皿を充実させていこうということで、サービス付き高齢者住宅や小規模多機能型居宅介護、グループホームなどをグループ全体で合計約100事業所まで拠点を拡大しました。今後は関東でも事業所展開を考えており、来年度には神奈川県で新規開設する予定です。

この事業は、国からお金が入ってくる、いわば官製事業という側面があります。国がトップのフランチャイズのような事業だということもできます。やり方もこの広さの建物にスタッフを何人置いて介護報酬はいくらということも決まっております。1軒建てるとその周辺にはもうそ

の施設は建てられませんので、直接的な競争相手はいないといえます。国の事業を、社会福祉法人や医療法人が代行しているイメージです。その中でメガフランチャイズにしていくと、効率がよくなつて給料も上げやすくなり、いい職員が集まってくると思います。患者さんにとっても利便性が増すと思います。働いている職員にとっても、国がしていることですから、きちんと運営すれば潰れることはありませんし、地域社会にも必要とされている事業ですので、まさに「三方よし」の事業となります。社会保障費の膨張により、介護報酬は引き下げられる一方で、経営環境が厳しくなっていくことが予想されますが、やりがいのある面白い事業だと思っています。

—— 職員の方は何人ぐらいおられるのですか。

大西 パートの方も入れて2500人くらいです。日の出医療福祉グループとなつてからは、特に人材募集などにスキルメリットを実感します。初めの頃は1法人だけ、特養が1か所あるだけでしたが、知名度が高まったとなく、人材募集には苦労しました。人材の確保は非常に大事な問題ですので、知名度を上げて人材募集で困らないようにするのは非常に重要なことです。必要な人数が明確に決められていますから、人数不足は介護報酬のカットに直結します。それだけでなく、景気が良くなると、介護業界には人が来なくなる傾向があります。そんな中、今までは海外からの人材受入を国が認めていませんでしたが、平成29年から技能実習生の受入が認められるようになりました。日の出医療福祉グループとしても、来年、ミャンマー4人、中国5人、モンゴル2人、そして留学生としてベトナム6人、EPAでフィリピン1人の受入を予定しています。全員女性です。

—— 訪問看護にも力を入れられているそうですね。

大西 24時間の訪問看護、訪問診療を行っています。小規模多機能型居宅介護

でも24時間見ていくことになっていきます。現在、訪問診療は800人から900人の患者さんを医師4〜5人で診ています。将来的には、患者さんを3000人くらいまで増やして、24時間、問題なく対応できるように体制にしたいと考えています。医師が少なくないとひとりひとりの負担が大きくなりますので、医師の人数を増やさなくてはなりません。今は、看取りに医師がいなくてはいけませんので、どうしても医師の人数を増やす必要があります。

患者さんの中には、在宅で過ごしたいという方も多くいらっしゃいます。そもそも人間というのは動物と同じで、亡くなる時は楽に息を引き取ることができるようプログラムされています。食べられなくなり飲めなくなったら、自然に木が枯れるように、苦しむことなく亡くなるようになっていくのです。今までの医療はその自然な姿に逆らっていたのではないのでしょうか。胃ろうや人工呼吸器も減ってきたと聞いています。今後は病院で死ぬことは少なくなっていくでしょう。

また、これまで進められてきた医療の専門化・細分化が行き詰まってきたので、今の若い医師には総合診療を目指す人が増えてきているようです。これからの医療は総合診療の方向に変わっていくような気がします。

—— いい傾向ですね。しかし亡くなり方は大事ですね。

大西 「生涯現役」という本も書いたの

ですけど、1つはガンで死なないためには毎年検査を受けることです。MRI2台、CTと胃カメラ、大腸カメラとマンモグラフィーを活用し、早期発見・早期治療するに越したことはありません。寝たきりにならない。呆けない。死ぬまで働き続ける社会を続けていかなくてはならないと思っています。

リハビリにも力を入れていますが、患者さんはいくつになられても熱心に通ってこられます。来られたら他の患者さんや理学療法士などと話しますから、呆れることはありません。

また、女性はいくつになられても、美容に関心を持っておられ、皆さんきれいにされています。そのため、リハビリセンターの横には美容医療部門も設置して美容ニーズにも対応しています。

—— 働いている人の年齢はどの辺りの方が多いのですか。

大西 非常に幅が広いです。若い人も積極的に入れていくようにしていますが、定年退職された方や80歳の方も働いていただいています。

この業界は働く人の意識が高く、介護に非常に熱心な方も多くいます。繰り返すようになりますが、やはりこうした志のある方にきちんとした報酬を出さないと、どうしても3法人のグループ化による効率化なども必要になってきます。当グループはグループ化メリットを生かして、持続可能な社会づくりに貢献することを目指しています。



◆大西 奉文(ともゆき)プロフィール
昭和30年11月 兵庫県稲美町生まれ
昭和50年 日本大学医学部入学
昭和56年 日本大学医学部卒業
昭和56年 日本大学医学部整形外科医局入局
昭和60年~61年 Loma Linda大学(U.S.A)留学
平成2年 日本大学医学部整形外科医局退職
平成4年 大西整形外科開業
平成6年 医療法人社団奉志会設立 理事長

著書：『生涯現役 ガンの早期発見と寝たきり予防のために』
人生80年時代を心豊かに生きるためのコツ、命の不思議などを、医療と福祉の現場に立ち続ける医師として伝えます。(定価1500円+税)

